



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を
一人一人が輝く子どもの姿を求めて

☆3月の目標

- ☆学習をがんばる
- ☆みんなとなかよく
- ☆笑顔であいさつ

☆配布物のお知らせ

- 1 学校便り

☆今後の行事計画

- 3月17日 卒園式・卒業式
- 4月14日 入園式・入学式

※紙面の都合で、作文等を短くすることもあります。ご了承ください。

☆二年三組 自分の知っているあそび

あいざわ 広大

ぼくは、トイレおにごっこというあそびをしました。これは、おにつかまった人がトイレの形になります。にげる人が、つかまった人の水をながすと、またにげることができます。つかまった人は、みんなへんなトイレの形をしていてすごくおもしろかったです。

☆二年三組 自分の知っているあそび

山下 華央

わたしは、アグラベイションというゲームについて書きます。そのゲームは、すごろくです。どうやってあそぶかという、さいしょに、ベースにビー玉をおきます。つぎは、自分が六か一が出るのを待ちます。六か一がでたら、スタートにこまをおきます。まん中にいくとちか道ができます。でも、一が出ないとそこから出られません。一ばんさいしょに、四こぜんぶこまをホームに入れた人がかちます。わたしは、だれがかちます。またやりたいたいです。

☆四年一組

きょうみを持ったこと

新井 勘汰

ぼくがきょうみをもったものは、レプトセフォルス」という言葉です。これは、ウナギの赤ちゃんのことを言っています。さい初から「ウナギ」という名前ではなく、生長するにつれて、名まえが変わっていくところにおどろきました。そして、大人のウナギと色や形までちがっていることを、初めて知りました。このレプトセフォルスも、もう少し成長して、形が変わると「シラスウナギ」とよばれ、ぼくたちが食べるときに、「ウナギ」という名前になるそうです。レプトセフォルスは、日本から遠いマリアナしょ島で生まれます。生まれた時は、一・六ミリメートルという小さなたまごで、ウナギに成長しながら日本にきます。とちゅうで魚に食べられたり、ちがう海流に流されてしまったり、死んでしまうレプトセフォルスもいるでしょう。日本に来るまで、だいぼうけんだと思えます。そう考えると、ぼくたちが食べるウナギは、とても強くて、きちょうなウナギだと思えます。そして、きせきに近いと思えます。マリアナしょ島から、日本までどんなぼうけんがあるのか知りたくなりました。

☆四年一組

きょうみを持ったこと

小柳 太河

ぼくが、一番きょうみを持ったところは、多くのたんじょう日が、新月の日前後にあつまっていることが分かりました。ウナギは、新月のころにあわせて、いっせいにたまごを産んでいるようなのです。のどころです。なぜかというと、ほとんどのレプトセフォルスが、新月の日後に生まれているということが、本当かきょうみを持ったからです。他にも、なぜ、新月の日前後いっせいにたまごを産むのかが気になったからです。また、年輪とレプトセフォルスのたんじょう日の関係がすごく不思議に思いました。

☆三年二組 自分の名前の由来

かげやま 怜桜

ぼくの名前はれおです。ライオンのように強くて、リーダシップをとれるような人間になってほしいとレオとつけたそうなんです。なので、えいごで書くとしたらLeoです。れおの怜の字にはかじこいという意味があり、桜という字には、日本の文化やでんとうを大切にできる人間になるようにつけたそうです。アメリカのお友だちもすぐにLeo.とよんでくれて、ぼくはうれしいです。

☆六年二組 忘れられない言葉

柚木 陸玖

多くの六年間を通して忘れられない出来事は、日本からアメリカにきたことです。ぼくは、四年生の夏に引越してきたのですが、はじめアメリカに行くとき聞いて時は、アメリカに何があるのか分からなかったのですが、とても不安でしたが、なぜか楽しみにしている自分もいました。しかし、日本の友だちと別れると思うととてもさみしかったです。

そして、実際にアメリカに来てみるとたくさんのおどろかされました。たとえば、ハロウインの時、大人も子供もコスチュームを着て全く知らない人の家に行っておかしきやらうことです。これは、日本ではまったくなかったことがなかったので、とてもおどろきました。他にも、くしゃみやみのやり方であったり、学校にバスで行ったり、時間割が毎日同じだったりすることです。このようにアメリカと日本では、多くのことがちがうことがとてもおもしろく感じます。

ぼくがアメリカに来た時言葉が分からないうし、日本に帰りたくなった時もあったけど、このような体けんができて、本当にアメリカに来てよかったです。



☆六年二組 忘れられない言葉

江西 絢香

この六年間で私が最も忘れられない言葉は、「あかや」です。私の名前は「あやか」ですが、アメリカ人はよくそれを「あかや」と間違えます。最初はそれが嫌で少しイライラしました。しかし、今では、これが私のアメリカ人との関係を変えてくれたとも言える思い出の言葉です。

これは、小学二年生の頃にさかのぼります。その年は、アメリカに来てはじめての年でした。初日にクラスでの自己紹介がありました。その時先生はみんなに「この子は、あかやです。」と言いました。私はすぐにその小さな間違いに気づきましたが、まだ英語など全く話せなかったのです。何も言えなくてただだまっていていただけでした。その次の年、私の誕生日に校長先生が私の名をアナウンスで呼んだのが、「あかや」でした。私は、まさか校長先生が私の名前を間違うとは思っていませんでした。怒りであふれました。毎年担任の先生が替わる度に名前を間違われました。しかし、少しずつ変化が見えるようになってきました。最初は、先生が間違えてもだれも気付かず私が直すだけでした。しかし、五年生にもなると、クラスの人々が呆れた顔で先生たちを訂正してくれるようになってきました。また、先生が間違えるとみんながドツと笑い、それにつられて私も笑うようになりました。友だちに一度だけ「あかや」の方が呼びやすいから、そう呼んでいいと聞かれたこともあり。これで、私は、「あかや」は、アメリカ人にとって、呼びやすい名前だと理解することができました。私はもう嫌だなんて一ミリも思っていないです。逆に楽しくて、面白い言葉だと思っています。四年間でたくさんの方が私の名前を間違わないようになってきました。「あかや」を「あやか」と訂正してくれる人の数が多いほどアメリカになじんだ証でありよろこびとなっています。

☆六年二組 忘れられない言葉

松井 那菜

「失敗してもあきらめない」この言葉は、私の心の中に飛び込んできた。バスケット部の先輩の言葉だった。バスケットの試合でこの言葉を聞いた瞬間、私にとって心の支えになり、そして、私の忘れられない言葉になった。

私が五年生の時、学校のバスケット部の試合に六年生をぬかして出れることになった。ついに試合に出れるという喜びと、もっと上手になろうという気持ちにあふれていた。だから、家や学校で今まで以上に気合を入れて精一杯練習した。しかし、精一杯練習したのにバスケットの試合で失敗やみんなに迷惑をかけてしまった。私のあふれる気持ちはだんだんなくなってきた。その気持ちのまま第一回戦目を終えてしまった。

そんな時、出会ったのがこの言葉だった。多分その時の私は、精一杯練習してもうまいか自分か。先の試合にも続くような気がしていたのだろうか。この言葉を聞いた時、私の気持ちはあきらめないでがんばるという気持ちにあふれてくるような気がした。

失敗やみんなに迷惑をかけてしまってもあきらめずに精一杯がんばっていけば、絶対に良いプレーができる。私は聞いた瞬間ふと思った。だから、第二回戦目は、「失敗してもあきらめない」という言葉を胸に秘めて試合に挑んだ。そして悔しいのないうれしくできた。その時の気持ちはうれしくて、うれしくてたまらなかった。この言葉のお陰で、なんだか失敗ばかりしていたことを忘れてだいたいようぶだと思えるようになってきた。それから、この言葉は、バスケットの試合だけでなく、勉強やテストいろいろな時にこの言葉を思い出して失敗しても、またがんばろうという気持ちにしてくれる素晴らしい言葉だと思った。これから先も何かに失敗して、あきらめずになんか頑張ろうと思った。私は、これから先もあきらめずにとこの言葉を胸に秘め、この言葉をずっと忘れたいだろう。